

平成29年度「学力・学習状況」検証事業研究状況報告書（概要）

1 学校紹介

本校は昭和48年に3つの中学校が合併統合して開校した町に1つの中学校である。学級数は12クラス（特別支援学級2クラスを含む）、全校生徒は301名。多古町には4つの小学校、県立高等学校、通信制私立高等学校、こども園があり、幼小中（高）の連携教育を推進し、「多古の子、町の子、みんなの子」の合い言葉のもと、町ぐるみで子どもを育てる風土のある地域である。

2 研究主題

生徒の学ぶ意欲を高める授業実践のあり方 ―基礎・基本の確実な定着を目指して―

3 研究の概要

(1) 生徒の実態と課題

<国語>

- ・ポイントを押さえながら読むことが苦手で、読解力に課題がある。
- ・「読む」「書く」活動の不足と、語彙力に課題がある。
- ・記述式において無解答が多い。

<数学>

- ・資料を読み取る力に課題があり、公式などの活用に結びつかない
- ・関数や図形の基本的な性質について理解不足である。
- ・記述式において無解答が多い。

(2) 学力向上のための取組について

①授業規律の確立

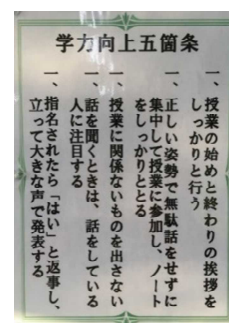
- ・小中連携で授業規律『学力向上五箇条』の徹底

②授業改善・学習指導の工夫

- ・「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラムを取り入れた授業実践

③学習意欲・基礎学力の向上

④家庭学習の充実



4 成果について

- ・「400字詰め原稿用紙2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」といった「書く」活動の回答が、平成27年度から年を追って改善された。
- ・「1、2年生のときに受けた授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」「1、2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか」といった「思考し、表現する力」に対する肯定的な回答が、平成27年度から年を追って増加している。

5 今後の課題について

記述式問題の無解答は平成27年度に比べ減少したが、出題の意図と少しずれてしまった回答も見られる。書くことに抵抗を感じる生徒は減少してきているが、今後も教科研修やアクティブラーニングの研修などを通して、思考し表現する力の育成を目指すための授業力向上が必要である。また、家庭学習の時間は増えてきたが、全国的に見るとまだ少ない。家庭と担任の相互チェックなどの連携した取組を一層進めていくとともに、家庭学習の内容の充実を図るため、「家庭学習のすすめ」を、さらに多古中の現状にあったものへと改善していき、充実した家庭学習を目指す必要がある。